

公衆衛生委員会では、月に1回程度外部委員より公衆衛生等について有益な情報を提供いただいております。協会職員の皆さまにもお役立ていただける内容が多くあると考え、ご紹介させていただきます。ぜひお読みください。

今回は、2月と4月の公衆衛生委員会でご発表いただいた外部委員の先生方からの情報をご紹介します。

ご発表いただいた先生方

**大林 航 先生**（佐賀県唐津保健福祉事務所 ※令和7年2月当時／伊万里保健福祉事務所／健康福祉部医務課・医療人材政策室）  
**小倉 憲一 先生**（富山県厚生部医務課）

2025年2月13日 公衆衛生委員会

## 令和6年能登半島地震を踏まえた 富山県での東海・北陸ブロックDHEAT協議会 実働訓練について

～保健医療福祉調整本部とDHEAT先遣隊の役割～

佐賀で取り組む

新たな感染症人材育成事業について

佐賀県 唐津保健福祉事務所・伊万里保健福祉事務所  
健康福祉部医務課・医療人材政策室  
大林 航

2025年4月10日(木) 1430-1530  
富山県厚生部医務課  
小倉憲一

令和7年4月10日

令和7年2月13日 公衆衛生委員会

令和6年能登半島地震を踏まえた富山県での東海・北陸ブロックDHEAT協議会

実働訓練について～保健医療福祉調整本部とDHEAT先遣隊の役割～

小倉憲一 富山県厚生部医務課

佐賀で取り組む新たな感染症人材育成事業について

佐賀県唐津保健福祉事務所・伊万里保健福祉事務所  
大林 航

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、あらゆる医療機関、社会福祉施設等において、施設内の感染拡大に対峙することになった。その際、特に、感染症指定医療機関や感染症入院協力医療機関以外の施設で、感染症対策を担う人材の不足が浮き彫りとなった。次のパンデミックに備えるためには、感染症対応力の底上げ、すなわち普段は感染症対策にかかわる機会が少ない施設での、人材育成が急務であると考えられる。

そこで佐賀県では、令和5年に「佐賀県IHEAT事務局」を設立した。県内の感染症対策にかかわる人材育成を目指し、医療機関や施設職員を対象とした研修会の開催や、参加の支援を行っている。

また感染症対策にかかわる人材育成の必要性は、保健所にも当てはまる。例えばコロナ対応では、100人単位の鼻咽頭ぬぐい液を連日採取していたが、5類移行後は、保健所でそのような機会はない。次のパンデミックに備えるためにも、コロナ対応で定着した知識・技能を、風化させずに継承することが重要である。佐賀県IHEAT事務局では、保健所職員を対象とした技能継承のための研修会も開催した。

新たな人材育成事業は始まったばかりだが、研修会の参加人数などからすると、手ごたえを感じるところである。佐賀県IHEAT事務局が中心となり、感染症対策に強い佐賀県を目指してゆきたい。

令和6年能登半島地震での富山県保健医療福祉調整本部の設置と富山県DHEATの派遣経緯を踏まえて、富山県内での地震発生を想定した令和6年度東海・北陸ブロックDHEAT協議会実働訓練を実施したのでその概要について報告する。

災害規模は奥羽山脈地震を想定し被害の最も大きい富山県射水市で震度6強、富山市と立山町で震度5強とした。発災後、富山県保健医療福祉調整本部を設置し「DHEAT先遣隊」の活動として県内DHEATは発災2日目から、富山県外の東海・北陸ブロック協議会内からの「DHEAT先遣隊」は発災3日目から被災地で活動を開始した。なお実働訓練翌日の午前には訓練の振り返りを行っている。

本訓練での目標を「発災後の初動対応、CSGAから3日目までの保健医療福祉全般の被害像の把握」として、東海・北陸ブロック協議会内の各県DHEATが富山県保健医療福祉調整本部および被災保健所、市町本部での実働訓練を実施した。

DHEATの初動対応、CSGA(DHEAT派遣調整システム入力を含む)と、行政の二層または三層構造での支援体制、具体的には避難所等の被災者の把握(災害時保健医療福祉活動情報システム-D24Hの活用を含む)等を行い、DHEAT体制強化の課題を検討した。

都道府県保健医療福祉調整本部内での、被災地に派遣されるDHEAT全体の司令塔となる「DHEAT都道府県調整本部(仮称)」の設置の必要性や「統括DHEAT」の役割、「都道府県保健医療福祉調整本部や地域保健医療福祉調整本部」等での「DHEAT先遣隊」の活動の在り方については表のようにまとめることができるが、DHEATと「保健師チーム」との連携を念頭に置きながら、今後も引き続き検討が必要である。

被災都道府県が保健医療福祉活動の総合調整を適切かつ円滑に行えるよう、被災地の保健医療福祉ニーズの把握や、保健医療福祉活動チームの派遣調整等に係る助言及び支援を本部長に対して行う「統括DHEAT」が、現地に派遣されるDHEAT全体の司令塔として、その要請や取りまとめを行うロジスティックとしての役割を担っていくことは、特に大規模災害においては困難であると同時に適切な役割分担でない。

都道府県保健医療福祉調整本部に入ったDHEATの支援活動としては、「統括DHEAT」の支援と、保健所や市町に派遣されるDHEAT全体のロジスティックとなる「DHEAT都道府県調整本部」での活動に分けて役割を考える必要がある。

今回の急性期の大規模災害を想定した訓練ではDMATが医療・福祉(急性期の施設からの避難等)を、DHEATが保健・福祉、つまり保健所等とともに避難所や在宅等の被災者の公衆衛生に関わる支援を中心となって担っていくこととした。

都道府県保健医療福祉調整本部における「DHEAT都道府県調整本部」は「保健師チーム」の調整担当と厚生労働省DHEAT事務局と連携しながら保健所や市町村に派遣されるDHEATの班数や保健師チーム数、派遣期間等を調整していくとともに、派遣されるDHEAT全体のロジスティックとしての役割を果たしながら、派遣されたDHEATや保健師等を通じて保健・福祉のニーズ、公衆衛生に関わる情報を得ていくことになる。

本実働訓練では「DHEAT都道府県調整本部」と都道府県保健医療福祉調整本部の「保健師チーム」の調整担当、DHEAT事務局との連携の必要性から「富山県保健医療福祉調整本部」でそれぞれの座席位置を図のように配置している。

発災早期から保健医療福祉調整本部等で指揮調整の組織体制の強化を図っていくためには近隣県である地方ブロックDHEAT協議会からの優先的な「DHEAT先遣隊」の派遣が有効であり、定期的な訓練を通じて職員間での「顔の見える関係」を築いておくことがDHEAT全体の組織体制強化にもつながっていくと考えられた。



## 大林 航 先生

佐賀県唐津保健福祉事務所 保健監（保健所長） ※令和7年2月当時  
伊万里保健福祉事務所 保健監（保健所長）  
健康福祉部医務課・医療人材政策室 技術監

「佐賀で取り組む新たな感染症人材育成事業について」を  
テーマに情報共有をいただきました。

## 佐賀県IHEAT事務局の設立

新型コロナウイルス感染症の対応を経て、保健所、医療機関及び社会福祉施設等  
における感染症対策にかかる人材不足が浮き彫りに



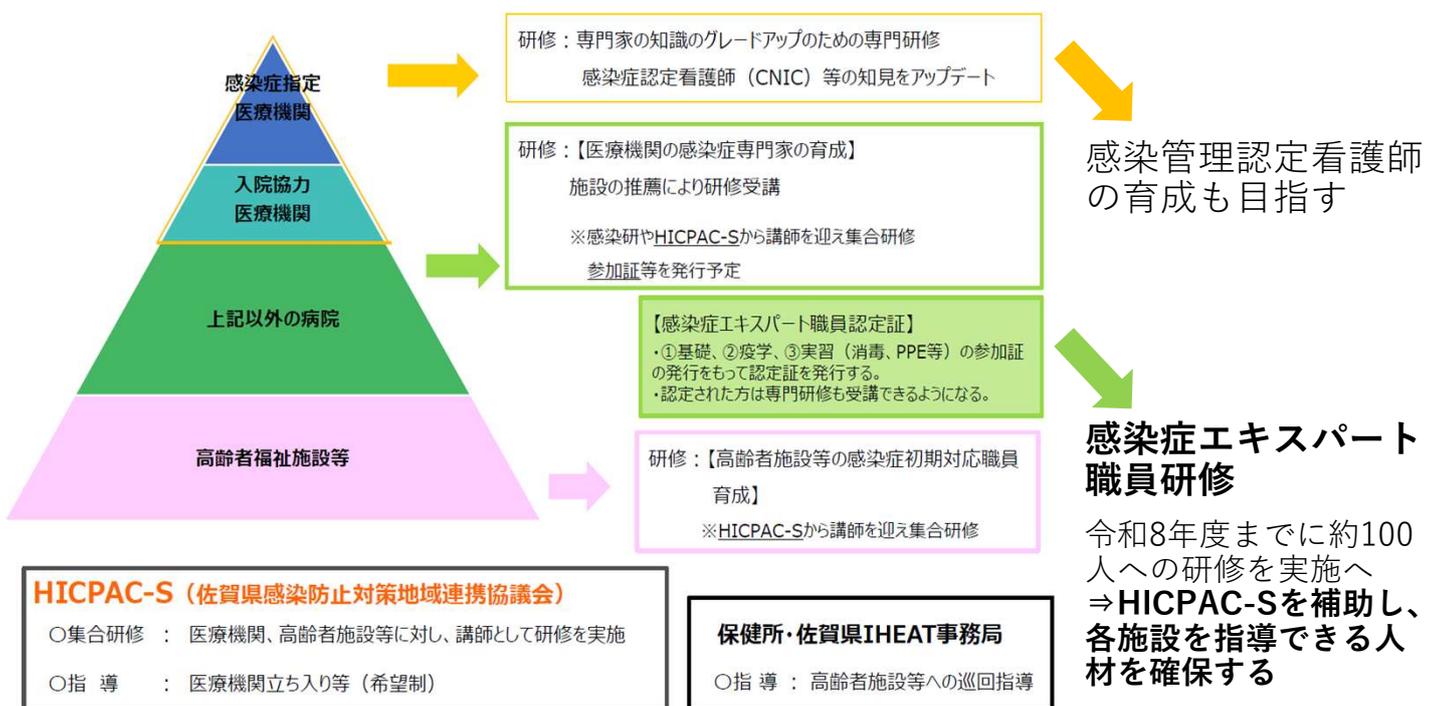
令和5年に**佐賀県IHEAT事務局**を設立

保健所、医療機関及び社会福祉施設などの職員を対象とした各種研修の実施や研  
修費用等を補助



次のパンデミックに備え、佐賀県全体の感染症対応能力の底上げを目指す

## 佐賀県感染症対応力強化事業（令和5～8年度）



佐賀県IHEAT事務局森屋局長  
より提供（一部改変）

## 感染症エキスパート職員研修

### (1) 目的

感染症に関する基礎的な知識・技術を習得し、施設内の感染対策のリーダーとなる職員を育成することを目的とする。

### (2) 目標

- ①感染症・感染対策に関する基礎的な知識と技術を習得できる。
- ②自施設内の感染対策のリーダーとして実践的な指導ができる。
- ③自施設の感染対策向上のために、地域の感染管理認定看護師等と連携できる。

### (3) 対象者

県内の病院に勤務する臨床経験5年以上の看護職で、研修修了後に自施設及び部署内における感染対策の役割を担う者であり、下記の要件をすべて満たす者。

- ①病院長等からの推薦者
- ②研修全日程に参加可能な者
- ③研修後のフォローアップ研修等に参加可能な者

日時	8:40	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
1日目 11月13日 (水)	受付	O 講 式	感染管理総論 (1時間)	標準予防策・経路別予防策 (2時間)				昼食	医療関連感染防止 (1時間30分)			職業感染防止 (1時間)		医療関連感染に係る 関係法規 (1時間)				
	CNIC		CNIC				CNIC			CNIC		佐賀県IHEAT事務局員						
2日目 11月14日 (木)	受付	診療報酬 について (30分)	洗浄・消毒・滅菌 (1時間)	抗菌薬適正使用 ①感染診療の考 え方 (30分)	抗菌薬適正使用 ②抗菌薬について (1時間)			昼食	微生物検査と 薬剤耐性菌 (1時間)	感染管理における 組織の役割 (1時間)		ファンリティ マネジメント (1時間)		感染症に関する法律等に ついて (1時間)				
	CNIC	CNIC	CNIC	CNIC			CNIC		CNIC		CNIC		佐賀県IHEAT事務局員					
3日目 11月15日 (金)	受付	アウトブレイク調査 に必要な疫学の知識 (1時間)	GW 「自施設における感染管理上の課題」 (2時間)				昼食	GW 「自施設における感染管理上の課題」 (2時間30分)				発表・総評 (1時間)		修了 証 授 与				
	CNIC	CNIC				CNIC				CNIC								

## 保健所の技術継承のための研修会

職員の異動などで、習得した検体採取手技や、PPE着脱のスキルの継承が難しくなることが懸念された。そのため、保健所職員を対象とした研修会を実施した。



### (1) 検体採取（鼻咽頭ぬぐい液）PPE着脱研修会

- ・新型コロナウイルス感染症の流行時、各保健所で実施していた施設集団採取等のノウハウを継承
- ・各保健所の保健師、臨床検査技師等、計29名が参加

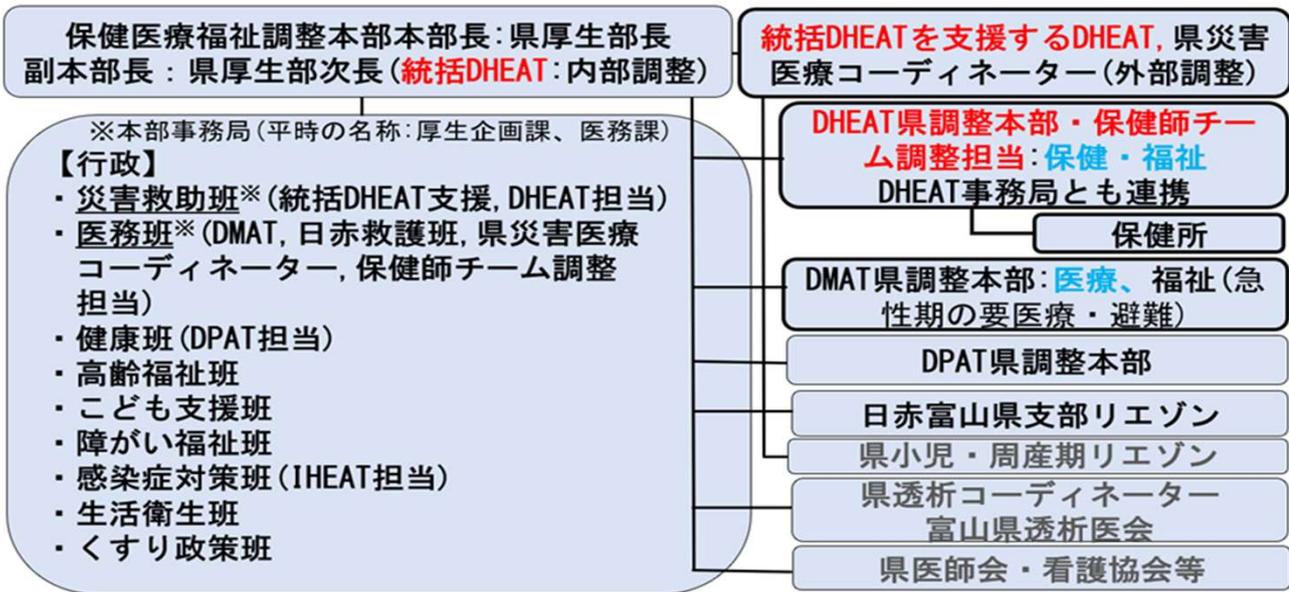


### (2) 腸管感染症疫学調査・検便検査手技研修会

- ・保健所等の感染症担当職員に対して腸管感染症（三類感染症）に関する知識および保育所等の施設における集団検体採取（検便）のノウハウを次世代に継承
- ・各保健所の保健師、臨床検査技師等、計29名が参加



# 富山県保健医療福祉調整本部組織図



都道府県保健医療福祉調整本部に入ったDHEATの支援活動としては、「統括DHEAT」の支援と、保健所や市町に派遣されるDHEAT全体のロジスティックとなる「DHEAT都道府県調整本部」での活動に分けて役割を考える必要がある。

## 今後のDHEATとDMAT等との役割分担

保健活動フェーズ※	0・1 (発災72時間以内)	2 (避難所対策中心)	3 (仮設住宅入居まで)
保健	DHEAT・保健師チーム等		被災地自治体
福祉 (急性期の要医療・避難)			
医療	DMAT，日赤救護班等		

※出典：大規模災害における保健師の活動マニュアル（全国保健師長会、平成25年7月）

今回の急性期の大規模災害を想定した訓練では、DMATが医療・福祉（急性期の施設からの避難等）を、DHEATが保健・福祉、つまり保健所等とともに避難所や在宅等の被災者の公衆衛生に関わる支援を中心となって担っていくこととした。

## まとめ

発災早期から保健医療福祉調整本部等で指揮調整の組織体制の強化を図っていくためには、近隣県である地方ブロックDHEAT協議会からの優先的な「DHEAT先遣隊」の派遣が有効であり、定期的な訓練を通じて班員間での「顔の見える関係」を築いておくことがDHEAT全体の組織体制強化にもつながっていくと考えられた。

公衆衛生だよりNo.6をお読みいただきありがとうございます。

ご意見・ご感想がありましたら公衆衛生委員会事務局までお寄せください。

【公衆衛生委員会事務局】TEL:03-5212-9152 e-mail:koushu-eisei-jimukyoku@jadecom.info